
麻婆Curry

Squall

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

麻婆Curry

【Nコード】

N3856B

【作者名】

Squall

【あらすじ】

「マーボーカレーが食べたい」と言い出した私の兄。普段料理をしないのに、いったいどうなることやら。

「マーボーカレーを食べてみたいんだけど、どう？」

「……いいんじゃないの？材料あるならやってみれば」

「よし、じゃあそうしよう」

そう言う兄は台所の棚をあさり始めた。料理はあまり手伝わない兄が意気揚々と台所に向かうのはちよつと面白い。母はちよつど他の料理を作り終わって皿と鍋を洗っている。おいしいのかどうかは知らないが、期待せずに待つてみよう。私は夕方のニュースにテレビのチャンネルを合わせた。

私の兄は好奇心のカタマリといつても過言ではない。小学校の頃は隣の県の科学博物館に連れて行つてと父にせがみ、中学に入ればビートルズで英語を学び、高校では美術館に通いつめる。大学生となった今ではSF小説を読んでいるらしい。この間家族と車に乗つたとき、兄が差し出したMDにはクラシックの次にヘビメタが入つていて父が驚くということもあった。

そんな兄が『マーボーカレー』という単語を初めて口にしたのは昨日のことであつた。とあるゲームに出てくる究極のレシピであり、一口目の後には、

「う……うまい……！」

と言わなければならないという。いつものことではあるが、毎度よく変な情報を仕入れてくるものだ。まあ、その妹の私も高校生でダリの絵が好きだという変わり者ではあるが。

ニュースでは最近よくあるバラバラ殺人事件の容疑者について報道していた。一つ前の事件では「妹になじられたからやった」という動機だつたらしいが、それでいちいち人が死んでたら私の命はい

くらあっても足りないだろう。なじったりなじられたりが遠慮なく出来るのが兄弟というものののに、心の狭い人間が増えたものだ。『次のニュースです。××県の養鶏場で鳥インフルエンザが検出された問題で、今日厚生労働省は……』

「一袋三人前って書いてあるわよ、ちよっと多くないかしら？」

「豆腐が入ってなかったら結構少ないと思う。これに水200mlだし余ったらお父さんに食べてもらうよ」

「それもそうね。片栗粉はこれかしら」

アナウンサーの声が聞こえない。いつの間にか母も調理に参加している。いったいどうなることやら。

十分後、炬燵の上に豚の生姜焼きとブロッコリー、そして『マーボーカレー』が並んだ。

私はいきなり皿いっぱい食べる気は無かったので、お茶碗のご飯にかけてもらった。微妙に赤が混じった茶色の物体からインドのスパイスと中華の山椒の芳ばしい香りがただよって来る。

『いただきます』

三人で合掌。私は豚の生姜焼き、兄は真っ先にマーボーカレーを口に入れる。そして、

「う……うまい……！」

本当に言うとは。他の人がいたらものすごく恥ずかしい。予想以上においしかったらしく、嬉しそうに二口目を食べている。

「ほら、食べてみてよ。どう？」

私もためしに一口。豆板醤の甘辛がガラムマサラと絶妙にマッチした、とても不思議な味だった。

「……いいんじゃない？」

私の兄は変だ。その尽きない好奇心に内心苦笑しつつ、私は二口目をぱくりと食べた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3856b/>

麻婆Curry

2010年10月11日06時33分発行